

灘チャレンジ実行委員会

1995年6月4日第1回開催

当時、神戸大学学生救援隊所属の中北が委員長となり「復興祭—NADA Challenge—」が開催された。
“復興祭”がメインタイトルで、“NADA Challenge”はサブタイトルであった。サブタイトルには、
灘のまちづくりに、学生が住民と共にチャレンジするという意味が込められている。

1995～2001 灘チャレンジ初期

- ・1995年6月4日 復興祭—NADA Challenge— 開催
中北委員長の下、六甲八幡神社（現在駐車場となっている場所）で開催される。約3,000人の来場者を得た。
- ・1996年6月 NADA Challenge 開催
内野委員長の下、1995年と同じ場所で第2回が開催される。この年は、神戸大学総合ボランティアセンターとの共催という形で開催される。
現在の灘チャレンジ実行委員会は、学生震災救援隊と総合ボランティアセンターの2つの団体に所属する形となっており、1996年のNADA Challengeがその始まりとなっている。
- ・1997年6月 NADA Challenge 開催
過去2年で開催場所としていた六甲八幡神社の場所が駐車場として整備されたことから、会場を都賀川公園に移して開催される。
この年から助成金を得ることができなくなり、水道筋商店街などから広告協賛をいただくことが始まる。
- ・1998年～ 灘チャレンジ 開催
祭りの名称が“NADA Challenge”から“灘チャレンジ”に変更される。
98年は大和公園に開催場所を移したが、99年以降は毎年都賀公園で開催されるようになる。
1995年の復興祭—NADA Challenge—から、毎年寸劇が公演される。

「復興祭」としての灘チャレンジ

「人と人とのつながりやコミュニティづくり」の灘チャレンジ

「コロナ禍」の灘チャレンジ

2008～2018 灘チャレンジ

- ・2008年6月1日 灘チャレンジ2008 開催
社会問題を題材とした風刺劇の公演が灘チャレンジのメイン企画となってきた。この年は夜間中学を題材とした劇。
- 2008年7月28日 都賀川水難事故
2009年の灘チャレンジ以降、都賀川水難事故の継承活動が展示等の企画で毎年行われるようになる。
- ・2016年の灘チャレンジより、消火器を使った消火訓練体験企画を開始
- ・2018年の灘チャレンジ2018では、10,000人の来場者を得る。
- 2019～ 灘チャレンジ
- ・2019年の灘チャレンジ2019が雨により中止
- ・2020年 都賀川公園での開催を断念し、12月にオンライン上での企画を計画。“オンライン灘チャレンジ”を実施。
- ・2021年 都賀川公園での開催を断念し、冊子「なだなんだ」を発行。
- ・2022年 4年ぶりに都賀川公園で開催。

震災から29年 何を受け継いできたか

私たち灘チャレンジ実行委員会は、阪神・淡路大震災の復興祭として始まったお祭りである。この第1回の灘チャレンジは、震災直後の1月23日に設立された「神戸大学学生震災救援隊」の1つの活動として実施された。設立当初の震災救援隊は、テント村など公的な救援が届きにくい場所にいる人への支援であったようだ。こういった内容は震災救援隊が独自で発行していた“救援隊通信”の第10号に記載されており、そこで当時の代表が、ともに協力した社会人や活動家への感謝の言葉が記されており、地域の人とのつながりがあったことが読み取れる。灘チャレンジもそういった“地域とのつながり”の中で誕生したお祭りで、学生が主体となって作り上げていくお祭りであるが、実態としては学生と地域の人々が5:5の割合で関わっており、地域とともに作り上げるお祭りであった。

2000年代に入って、灘チャレンジが“復興祭”という文字通りの性格だけで継続していくことに疑問を持つようになった。灘チャレンジは1996年の第2回開催から、震災救援隊と神戸大学総合ボランティアセンターの共催という形で運営されてきたが、2001年度の終わりに総合ボランティアセンターが灘チャレンジの取り組みを放棄しようとする動きがあった。結果として現在に至るまで灘チャレンジは総合ボランティアセンターの1つのセクションとして存続しているため、実際に放棄されることにはならなかったが、灘チャレンジの開催理由を考え直すきっかけとなった。そして灘チャレンジは“復興祭”に加えて、“復興の過程や復興そのものから見えてきた問題を発信する場や、祭りを創る人と来場者との交流、さまざまなものごとに出会うきっかけとしての場”などといった性格が強くなっていった。祭り当日には、問題を発信する場として「寸劇・風刺劇」が継続して公演されたり、地域で活動しているボランティア団体などに模擬店の出店をしてもらっていた。

そして現在、新型コロナウイルスの流行によってこれまで創り上げてきた地域との関わりやOB・OGとの交流がなくなってしまったことで、これまでの灘チャレンジがどのようなことを大事にしてきたかといったことが受け継がれることがなくなってしまった。2022年に4年ぶりに開催された灘チャレンジは“コロナ禍からの復活”を前面に押し出したお祭りで、今年度開催した灘チャレンジ2023は、2010年代の開催規模に回復させることに注力する形となった。

灘チャレンジは震災発生からの経過やその時々々の社会情勢に合わせて内容が変化していったが、ここまで29年で一貫していたことは、第1回開催のサブタイトルに込められた「灘のまちづくりに、学生と住民がともにチャレンジする」ということをその時代の学生が意識して祭りを企画・運営してきたということである。

左から灘チャレンジ2008、灘チャレンジ2013、灘チャレンジ2015



灘チャレンジ2023